

平成31年1月4日

第175号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaffgo.jp/kanto/>

# 謹賀新年

「富士山」新道峠第一展望台から (山梨県富士河口湖町)

(撮影：関東森林管理局 山梨森林管理事務所)

- ◎ 新年のご挨拶 関東森林管理局長 齋藤 伸郎・・・2
- ◎ 連携した民有林の木材販売 資源活用課・・・4
- ◎ ニホンジカ被害対策協定締結  
成果報告会開催 保全課・・・5
- ◎ 林業試験地から 森林技術・支援センター・・・7
- ◎ 森づくり最前線  
東京神奈川森林管理署 世附・丹沢森林事務所 首席森林官 川島 光広・・・8

# 新年のご挨拶

関東森林管理局長 齋藤伸郎



平成31年度の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、日頃より関東森林管理局の業務運営はもとより、林野行政全般にわたり、ご理解とご協力をいただいております。厚く御礼を申し上げます。

昨年は7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震、度重なる台風など、我が国は多くの災害に見舞われました。被災された方々及び関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。草津白根山（本白根山）の噴火や台風被害等が発生していることから、関東森林管理局としても、被災地の早期復旧に努めるとともに、災害に強い安全な国土づくり、緑の

国土強靱化を進めてまいります。

さて、我が国の森林・林業については、人工林の多くが本格的な利用期を迎えています。この豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」という形で循環利用していくことで、豊かな森林を次世代へ継承していくことが大きな課題となっております。

このような状況の中、適切な経営管理が行われていない森林について、市町村が仲介役となり意欲と能力のある林業経営者への集積・集約化や市町村による公的経営を進める森林経営管理法が昨年5月に成立しました。また、市町村が実施する森林整備及びその促進に資する取組の財源として、森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）が導入されることとなっております。

また、意欲と能力のある林業経営者の育成のため、国有林野の一定の区域で、公益的機能を確保しつつ長期・安定的に立木の伐採を行うことができる新たな仕組みの導入に向けた検討も進められているところです。

関東森林管理局といたしましては、公益重視の経営経営を一層推進するとともに、林業の成長産業化や地域貢献に向け

た取組に力を入れていきます。林業を成長産業にしていく上で、森林施業の生産性向上、労働安全の確保は重要な課題です。この課題解決に向け、今、関東森林管理局では組織をあげて、コンテナ苗の活用や高性能林業機械を活用し伐採から造林までの作業を連続して行う一貫作業システムや、かかり木が少ない列状間伐を管内全域で推進しており、新たな施業方法が民有林にも広く普及するよう本年も現地検討会を開催してまいります。

また、民有林と国有林の連携を強化するため、地域の森林づくりについて、市町村や林業関係者等への技術的支援を行う森林総合監理士（フォレストスター）を育

成してまいります。さらに、「民国連携推進地区」を設定し、市町村森林整備計画の作成や地域の森林・林業を巡る課題解決に向けた取組を重点的に支援するとともに、民有林を経営する方と協定を締結して「森林共同施業団地」を設定し、一体的な路網整備や間伐等の森林施業を推進してまいります。

国産材の安定供給体制の構築に貢献していくことも重要な課題です。

国産材の付加価値向上や需要拡大、加工・流通の合理化等に取り組み製材工場や合板工場と協定を締結し、国有林材を計画的・安定的に供給する「安定供給システム販売」を各地域の需要者ニーズを把



豪雨による被災の状況（栃木県日光市）



上記写真の復旧の状況（栃木県日光市）



林業機械の活用の様子

握しながら進めてまいります。  
 国有林を名実ともに「国民の森林」とするために森林の公益的機能の発揮を重視した管理経営が重要です。  
 このため、多様な森林整備の推進や鳥獣被害の防止対策を講じています。特にシカ等の野生鳥獣の生息域が拡大し、食害等が深刻化していることから、防護柵等の設置を進めるほか、被害状況や生息状況の早期把握のため、センサーカメラによる監視を強化するなどの対策を実施します。また、銃猟における安全確保を第一としつつ、地域と連携した捕獲を実施するなどシカ被害対策の推進に取り組んでまいります。



飛竜橋自然観察教育林（静岡県川根本町）

今や、国民の3割が花粉症といわれており、花粉発生源対策の推進も急がれます。花粉症対策苗木への植え替えなど、花粉の少ない森林づくりを更に進めてまいります。  
 また、近年各地で多数の山地災害が発生し、豪雨や地震により甚大な被害が生じており、自然災害への迅速な対応が求められています。治山事業の推進による災害に強い森林づくりを進めるとともに、災害発生時には、ヘリコプター調査の実施等の初動対応、崩壊地等の復旧整備を実施しています。  
 「観光先進立国」の実現にも貢献してまいります。特に優れた森林景観を有する



野反湖自然休養林（群馬県中之条町）

として林野庁が選定した「日本美しい森 お薦め国有林」をはじめ、国有林の観光資源としての活用に積極的に取り組んでいきます。  
 今年3月には東日本大震災の発生から丸8年を迎えます。昨年は、避難指示が解除された区域にある国有林において森林整備を本格的に再開するとともに、原発事故の影響により閉鎖していた森林事務所も全て再開したところです。引き続き、関係各方面との密接な連携の下、被災地の森林・林業・木材産業の一日も早い再生に着実に進めてまいります。



一ノ倉・マチガ沢風景林（群馬県みなかみ町）

国有林は、国民共通の財産です。  
 国民の皆様のご意見・ご要望をよく聞かせていただきながら、期待に応えられるよう仕事を進めていきたいと考えております。  
 関東森林管理局の広報誌「関東の森林から」では、よりわかりやすく関東森林管理局の取組を皆様にお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。  
 結びに、新しい年が皆様にとって健康で多い年となりますよう祈念申し上げます。まして、新年のご挨拶といたします。

**連携した民有林の  
木材販売**  
資源活用課

**民国連携システム販売**

林野庁では、民有林と国有林が連携して原木の安定供給体制づくりを進めています。また、民有林における施業の集約化、未利用間伐材等の有効利用等の取組を推進するため、製材工場等の木材需要者との協定を締結し、民有林所有者等と連携して木材需要者への安定供給を行っています。

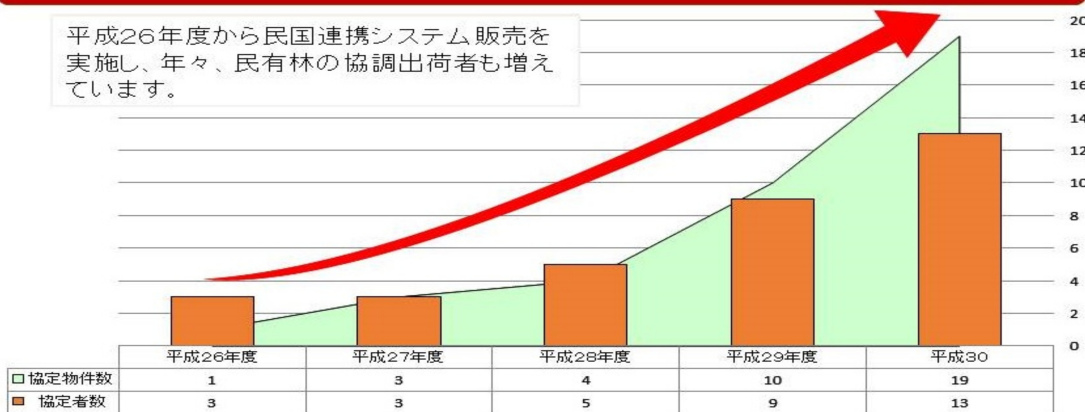
「民国連携システム販売」は、一定の要件を満たす民有林所有者等との協定や国産材の需要拡大、加工流通の合理化等に取り組んでいる木材需要者を対象としています。

**今年度の取組**

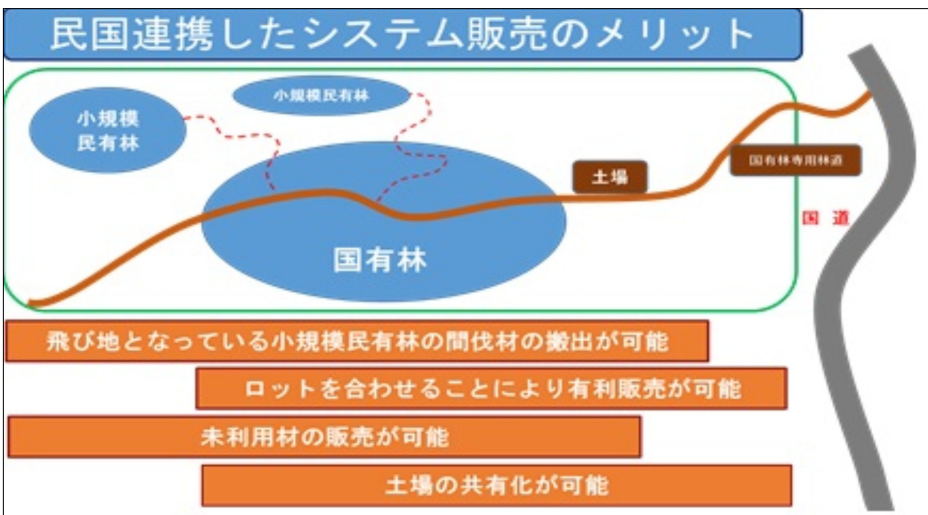
民国連携システム販売は、平成26年から実施し、開始当初は民有林の参加者が3者1物件のスタートでしたが、年々増加し、昨年度

**国有林と連携している民有林のシステム販売の参加者は年々増加**

平成26年度から民国連携システム販売を実施し、年々、民有林の協調出荷者も増えています。



は19物件にまで大幅に増加しています。19物件にまで大幅に増加しています。19物件にまで大幅に増加しています。



**システム販売のメリット**  
民有林との連携によりロットを拡大し国産材の安定供給体制を強化するだけでなく、民有林からの搬出量が増加するなど、森林所有者への還元拡大や民有林の施業の集約化の支援等にもつながっています。



このような好評の声を受け、今後とも民有林材と国有林材の協調出荷を拡大し、林業の成長産業化への一助となるよう取り組むこととしています。

**民有林関係者からは好評の声が**  
・ 固定価格が適用され安定収入を見込めた  
・ これまで十分に販売できなかった低質材が販売し易くなった  
・ 連携により国有林の路網や土場（木材の集積・仕分けスペース）を活用した搬出が可能となった

# 二ホンジカ被害対策協定締結

## 成果報告会開催

保全課

平成25年、当時の関東森林管理局管内の多くの森林においては、二ホンジカによる食害が急増しており、一方、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所では、二ホンジカ被害防止に係る技術開発等の取り組みを現場で具体的に応用し、より効果的な手法を確立していくことが望まれていました。

このことから、平成25年7月、両者間において「二ホンジカ被害対策に係る協定」を締結し、二ホンジカ被害防止対策に係る技術開発や実証試験等、様々な取組を行ってきま

した。このような中、協定締結から5年の期限が到来したこと、森林総合研究所と成果の検証を行いました。その結果、皆伐、再造林の増加を踏まえた二ホンジカ被害対策の低コスト化に係る技術開発、富士山地域において一定の成果が得られたことを踏まえ他地域への普及などの新しい課題に取り組むことが必要であると

の結果となりました。

この結果を踏まえ、関東森林管理局と森林総合研究所は、新たな「二ホンジカ被害対策に係る協定」を締結することとし、平成30年11月27日に関東森林管理局において、齋藤関東森林管理局長、沢田森林総合研究所長による協定書への記名と調印を

### 二ホンジカ被害対策に係る協定

#### 調印式



調印式（左：沢田森林総合研究所長 右：齋藤関東森林管理局長

行いました。

調印式終了後は、会場を大会議室に移し、これまでの5年間の協定に基づき取り組んできた成果を総括し、今後の二ホンジカ被害対策に繋げるため、「二ホンジカ被害対策に係る協定」成果報告会を開催しました。

報告会では、関東森林管理局が作成し、平成27年度から管内で使用している「二ホンジカ影響簡易チェックシート」による調査の取組や、森林総合研究所が開発した「シカ情報

マップ」のソフトの紹介を行いました。

また、富士山周辺部において、静岡森林管理署と森林総合研究所の小泉研究専門員が連携して取り組んできた「富士山国有林における二ホンジカ対策について」の事例を紹介しました。

この対策は、山梨県と静岡県にまたがる富士山を中心とする地域では、二ホンジカの生息密度が特に高い状況にあったことから、平成23年度か



シカによる食害（利根沼田森林管理署）



リンロンテープによる剥皮防止（利根沼田森林管理署）



斜め張りネットによる防護 (伊豆森林管理署)

ら銃による誘引捕獲事業を初めて導入し、現在も取り組んでいます。この新しいシカ捕獲事業と同時に生息状況調査を行い、富士山地域における二ホンジカの生息状況の変化について確認を行ってきました。その結果、森林総合研究所の推定によれば、「富士山地域におけるシカの生息密度は低減している状況が見られている」との見解が出されたほか、「捕獲者、研究者、森林管理者が連携した取組を行い、きちんと捕ればシカは減るといふ結果が出ている。」とのコメントも提示され、引き続き、双方が連携して取組を



センサーカメラの設置

続きさせて行くことが重要との認識を持ったところです。このほか、関東森林管理局管内で取り組んでいる二ホンジカ対策として、利根沼田森林管理署から地元猟友会との連携による取組や、会津森林管理署南会津支署から尾瀬・大江湿原における植生保護対策として設置した防鹿柵の設置・撤去作業を、公益財団法人尾瀬保護財団と連携し、ボランティアにより行った事例等を紹介しました。最後に、森林総合研究所における研究動向として、岡野生動物研究領

域長から「防鹿柵の効果を検証してわかったこと」と題して、防鹿柵を設置した場合のシカの生息密度数と破損リスクの関連性などについての情報提供をしていただきました。今回の成果報告会には、総勢120名を超える方々にご来場いただきました。

あらためて、二ホンジカによる被害に対する関心の高さが伺える結果となり、主催者としても、この成果を次に活かして行けるよう努力していくことをあらためて感じたいところです。

今後も、森林総合研究所と連携し、二ホンジカ被害対策の先導的な立場となりうるよう、様々な取組を積極的に進めていきたいと思えます。

### きのこ特集

お酒飲んだら食べられません

ホテイシメジ (毒) (キシメジ科カヤタケ属)

9月中旬から11月中旬にかけて、いろいろな林内地上に単生から散生しますが、特にカラマツ林に多く見られます。



カサは、3 cmから8 cmで初め饅頭型老菌になると中央が窪みます。表面は淡灰色から淡褐色です。柄は5 cmから9 cmで表面はカサより淡色で平滑で根元が太くなります。ヒダは白色で深く垂生します。

非常に美味しいきのこですが、体内にアルコールがある状態で食べると、きのこ成分にコプリンがあるのと、コプリンがアルコールと結び付くと毒成分となり、酷い二日酔いのような症状の中毒を起こします。

# 林業試験地から 森林技術・支援センター

新年明けましておめでとうございます。今回は、当センターの試験地で樹齢100年を超える18の人工林の中から特徴ある高齢級のヒノキ林分を紹介いたします。

試験地は、茨城県のシンボルである筑波山（日本百名山・標高877m）にあり、山頂からは富士山や関東平野を360度見渡せる景勝地にある試験地です。この筑波山石岡市側の中腹東向きに明治33〜34年に植栽した樹齢約120年生のヒノキ一斉林（写真1）が生育しており、昭和52年に技術開発の「筑波山複層林試験地」として設定しました。



写真1 筑波山複層林試験地（1979年撮影）

この試験地（写真2）は、景観維持を目的とする風致施業モデルとして8タイプの高齢級多段林を設定し、人工更新を体系化する試験地です。

この試験地約34ha内は、一般の方々が入場から試験地内を気軽にトレッキングするコースがあることから、この歩行順路と上空からの撮影により説明します。

最初は、「木材の搬出」を考慮して、魚の骨の形状（写真3①）に一定の幅で伐採するモデル林です。

次は、ヒノキの下層木が、上層木の伐採本数（写真3②）で、どのような生長を遂げていくのか、陽光の条件の違いで比較できるタイプの試験地をご

覧いただくことができます。

更に下っていきますと、上層木のヒノキを、それぞれに点状や円形の群状（写真3③）また、斜面に対し横の列状に伐採したモデル林があり、この空間に植栽したヒノキの生育がどのようになっているかタイプ毎の見比べが可能となっています。

次のモデル林は、20年毎に計画的に伐採している「長期育成循環施業区」（写真3④）です。具体的には、景観維持に配慮しつつ、更新を人工的に適正に繰り返すこととし、森林を小面積でモザイク状に皆伐し、8段林（現在は3段林）に誘導する長期試験課題としています。

また、下山コース終点には、ヒノキ

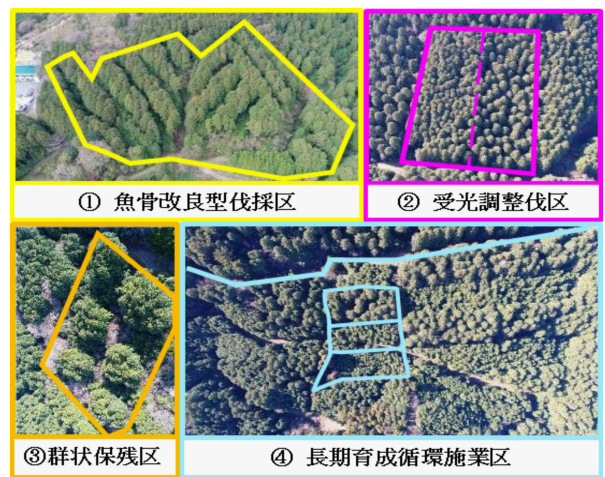


写真3 筑波山複層林試験地施業タイプ



写真4 点状保存区内のサワラ

に混じり植栽した経過は不明ですが、サワラの大径木（写真4）が訪れる人々を歓迎します。近年は、ドローンによる撮影で、上空から生育状況などを比較できるようにりましたが、やはり現地をみて森林の経営管理の参考にしたいだければ幸いです。昨年は、北海道の林業家グループや埼玉県林務担当グループの団体のほか2機関が当試験地を訪問して意見交換をしました。

国際的に地球温暖化対策や生物多様性が求められるなか、樹齢100年を超える文化遺産を護りつつ林業の普及活動等の知見を広めることも当センターの重要な業務です。個人・団体視察会等で大径木に直接触れることができそうですので希望される方は、当センターにお問い合わせ願えば幸いです。

今回は、200年を超えるスギ人工林を紹介するのでご期待ください。

# 森づくり最前線

東京神奈川森林管理署 世附・丹沢森林事務所 首席森林官 川島 光広



蛭ヶ岳・丹沢山・塔ノ岳

世附・丹沢森林事務所は、神奈川県西部の丹沢担当区と世附担当区の2つの区域を管轄しています。丹沢担当区は、県内最高峰の蛭ヶ岳（標高1,673m）をはじめ、丹沢山、塔ノ岳、鍋割山などの峰を抱える山北町から秦野市のエリアにあります。首都圏から近く、富士山や太平洋などの壮大な展望が得られることもあり四季を通じて多くの観光客で賑わっています。また、玄倉川沿いには「ユーシンブルー」と呼ばれる絶景が見られるスポットが点在しています。（残念ながら現在は、急峻な地形による落石が多く危険なため、気軽に散策出来ない状況になっています。）

世附担当区は、神奈川県、山梨県、静岡県との3県が接している三國峠から北東方向の山北町の中にあります。この地域は、富士山が近く、大昔の富士山噴火による火山灰の一種「スコリア」と呼ばれるさらさらした砂のような土壌で覆われているため、風雨の浸食に弱く非常に崩れやすい地質となっています。平成22年の台風では、豪雨により至る所で林地や林道が崩壊するなど甚大な被害がありました。担当区のメイン街道である水ノ木幹線林道も相当の被害を受け復旧に多大な労力と費用・時間を要し、スコリア土壌を考慮した工法を取り入れるなどして、ようやく今年7年ぶりに開通させることが出来ました。このように、一旦崩壊してしまえば復旧に膨大な



ユーシンブルー（熊木ダム）

な時間と費用がかかるため、森林整備に当たっては、列状に間伐する時は切る列の幅を狭くするなど工夫をしています。



水の木幹線林道（復旧の状況）

また、この地域ではクマの剥皮被害が拡大しており、ひどい所では百m四方以上がまとめて被害に遭い、皮を剥がれた樹木は徐々に枯れてきている状況です。世附部内はほぼ全域が水源かん養保安林に指定され、重要な水源となっています。緑のダムとしての機能を維持するために、残った木にテープ状の剥皮防止資材等を巻くなどの対策を行っています。対策を行った区画の隣の森林が被害に遭うなど、今一番差し迫った問題となっています。



クマによる樹木の皮剥状況

い地域の実情を踏まえ、地方創生・地域振興も国有林に課せられた大事な使命であることを念頭に、今後、山作りとしても地域産業としてもメリットがあるWINWINの森作りが出来るように努力していきたくと考えています。



ニホンイノシシ(日本猪)  
100-170cm. 母と子からなる群れで暮らす。  
時速45kmで走り、鼻で70kgを持ち上げる。  
木の根が野物で植林した苗を掘り返す。

発行所 関東森林管理局  
編集総務課  
TEL(027)20-1158  
FAX(027)20-1363